

琵琶湖沿岸、西の湖および伊庭内湖における ホンモロコの産卵状況

大植伸之・藤岡康弘

1. 目的

ホンモロコの産卵状況と産卵期間中の水位変動の影響を把握するために琵琶湖沿岸(2地点)と周辺内湖(2地点)において産卵調査を例年行っており、平成29年度についても同様に調査を行った。

2. 方法

大津市小野、長浜市延勝寺、近江八幡市西の湖、東近江市伊庭内湖の4カ所において、湖岸距離約50m~100mのヨシ・ヤナギ帯で、概ね3月から7月まで原則1回/週の頻度でホンモロコの産卵状況を調査した。琵琶湖水位の変動は、琵琶湖河川事務所の琵琶湖水位データを用いた。

3. 結果

産着卵は、4月下旬から6月下旬まで確認された(図1~4)。

産卵期間を通じた各調査地点の産卵数は、小野が約41万粒、延勝寺が約31万粒、西の湖が約131万粒、伊庭内湖が約88万粒であった。

調査日における産卵のピークは小野が4月21日、延勝寺が5月25日、西の湖が6月8日、伊庭内湖が6月1日および6月8日であった。

産卵期間中の琵琶湖水位は、4月中旬から低下し5月中旬に微増したものの6月中旬まで概ね下がり続けた。

各地点とも産卵ピークと水位低下の時期が重なっており、多数の干出卵が確認された。

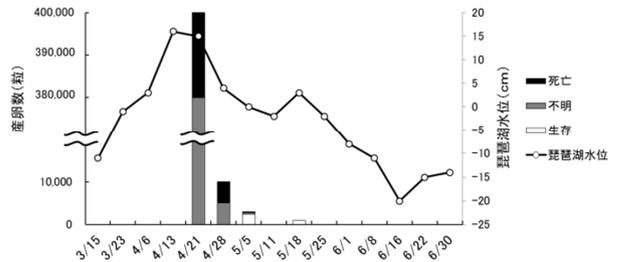


図1 小野における産着卵数の推移

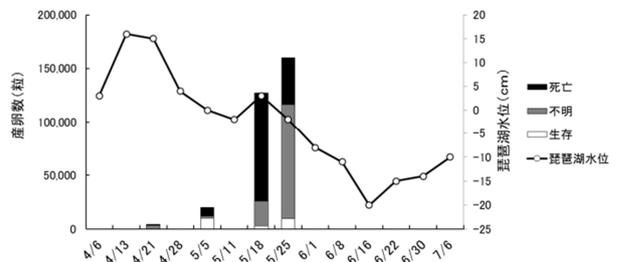


図2 延勝寺における産着卵数の推移

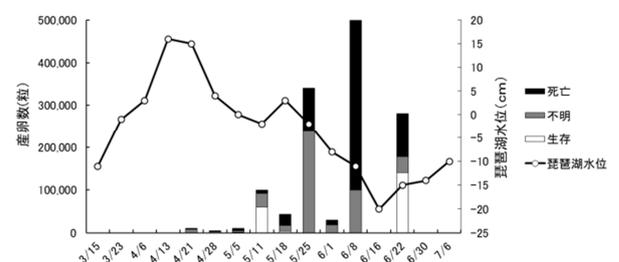


図3 西の湖における産着卵数の推移

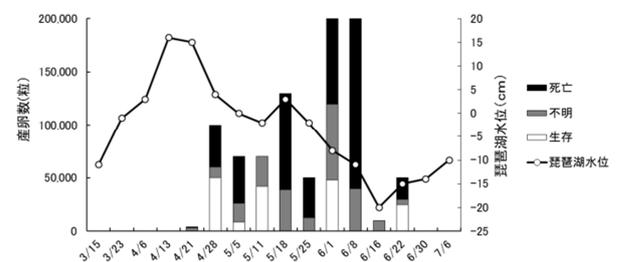


図4 伊庭内湖における産着卵数の推移